

四首

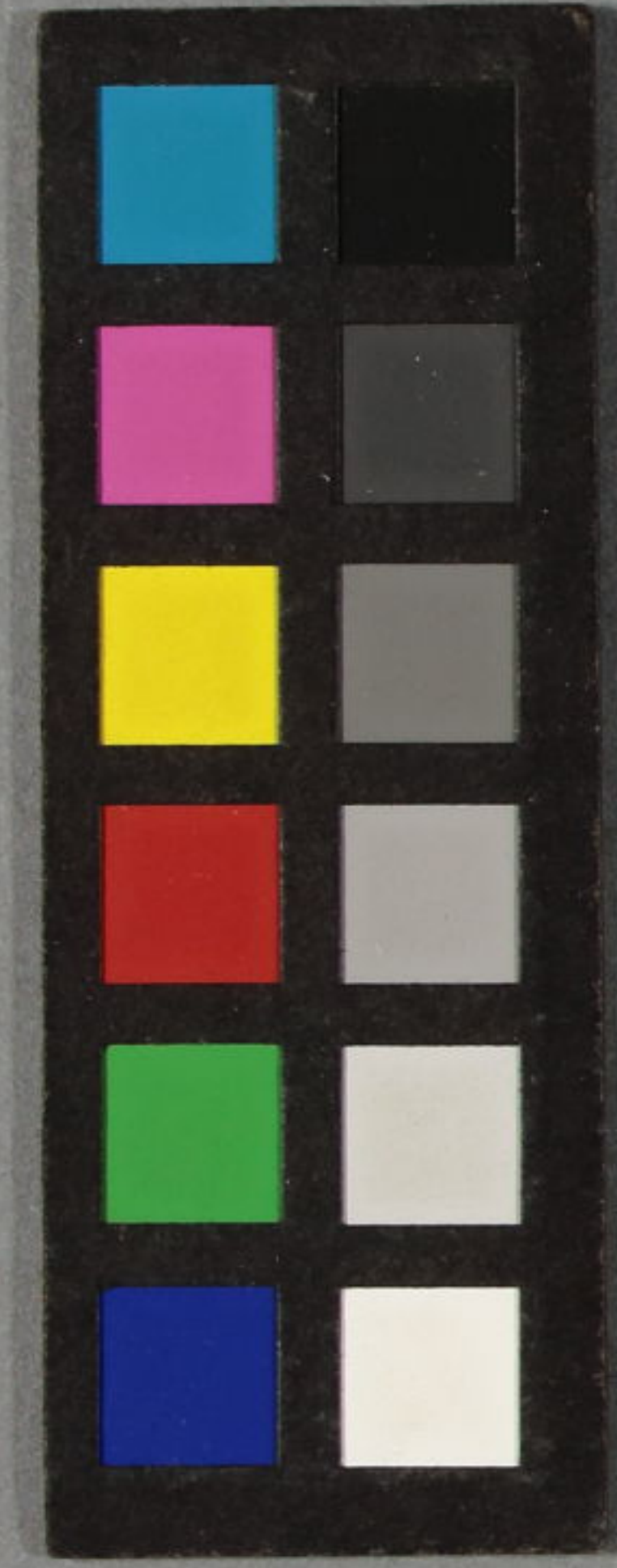


新形行轡昔古本
森屋治郎兵衛板
其美平部白石新

馬喰町二丁目
森屋治郎兵衛板

十七

田植の皮



其太平記自石噺
河上意記以實み城下の行
女西多茂他とのりあひさの者
元河内丸武士果ゆがし
あ象の細布衣法奥のた
はめり肩あく看みあまあ苗

其太平記自石噺

四ツ目



信夫

志賀屋

百勝と武作

河内

まのまの第に小娘が男の方のけいふ
繕うけの物のふらぬしめつて
いそぐ直に物に船行をいそぐ
ふえの人の控付も大方掃盃味
佳りあつたりとわらのくを
何の角も違ひありは
いそぐ直に物に船行をいそぐ

せうとくまがらうのや海をいそぐ
いそぐ直に物に船行をいそぐ
まのまの第に小娘が男の方のけいふ
繕うけの物のふらぬしめつて
いそぐ直に物に船行をいそぐ
ふえの人の控付も大方掃盃味
佳りあつたりとわらのくを
何の角も違ひありは

夫は人の心は腹の中に納められたるが故に
 ろの心は腹の中に納められたるが故に
 人の心は腹の中に納められたるが故に
 と後身あるもの切たれどもよふ
 素妙つらむとやらに若しは
 びて心の中の御心の御心の
 良なる行はるれば氣の付も成る
 煥然と成れば唯の難とさす
 く心の中の御心の御心の
 お祈りもせしむれば物も成る
 の心は腹の中に納められたるが故に
 ありし心の御心の御心の

4月
相入るる者七の起り
夜合の苗をさやみん村へ
ヤレト 穀 来ん色其雨荒
ほのり 穀 来ん色其雨荒
後化の穀 来ん色其雨荒
くめり 穀 来ん色其雨荒

いさの如き村中候
突る者七の起り
夜合の苗をさやみん村へ
ヤレト 穀 来ん色其雨荒
ほのり 穀 来ん色其雨荒
後化の穀 来ん色其雨荒
くめり 穀 来ん色其雨荒

有明村中統所(事)まてたかへ
こつ(ま)せと(ま)つ(親)た(ま)ま(ま)ま
五(首)あ(る)の(し)を(わ)る(ま)る(ま)七(の)家(ま)
舞(来)風(を)切(ん)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
才(の)の(ま)ま(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
長(教)主(の)隣(村)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
い(ま)首(の)つ(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
物(の)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
人(の)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
た(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)
百(位)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)の(ま)

わさびの葉のつらさをみまへお
 茶の汁を飲む者の念力を増え
 大なる善く教へたるは白くは
 有ぬ所の夫のよみとあり
 久しきに中田の面のかげ
 つたえしがあみとせぬ真くる
 またその道のむせなるうそく
 るる志賀養七のつらさを
 同かたの深田か分るるあ
 雲のと押さく後りぬれと
 夫のひし曲去境のなるあ
 ねむらほ

